

2020年（令和2年）11月6日

## 「小山敬三美術館」秋～冬期企画展

「小山敬三の中国風景展」  
～ 屋根はうねる ～小山敬三が19世紀の面影を残す中国で見つけた美の世界を  
未公開作品を交えて紹介

## (1) 会 期

令和2年11月14日（土）～令和3年3月31日（水）

## (2) 時 間

午前9時～午後4時（ただし、11月は午後5時まで）

## (3) 場 所

小諸市立小山敬三美術館 第二展示室

## (4) 内 容

小山敬三は、フランスへ絵の修業に行く前の大正6年(1917)と、フランスから帰ってからの昭和9年(1934)に中国へ絵を描きに行っています。1934年の旅行では、西欧や日本とは違った中国の風景の特徴を再発見し、春と秋の二度渡航しています。

小山が中国で特に興味を持ったのが建物の「屋根」でした。中国では、宮殿から農家まで様々な色と意匠の瓦屋根が造形美を競っていました。

この時の経験は、小山が西洋の技法で日本の風景を描くための糧となり、後の白鷺城シリーズなどの力強い表現につながっていきます。

本展では、小山が19世紀の面影を残す中国で見つけた美の世界を、未公開作品を交えてご覧いただきます。

展示内容は、本画は屏風を含めて5点、その他図版からの複写、新聞スクラップなど約15点を予定しています。

なお、「第一展示室」では、代表作を常時展示しています。

## (5) 入館料

一 般 200円 小・中学生100円

懐古園共通券の場合

一 般 400円(300円) 小・中学生 150円(100円) ( )内20名以上団体料金



《万寿山石舫図》 1934 年  
北京郊外の万寿山一帯は歴代皇帝の保養地で、湖に面して石造りの船（石舫）が浮かんでいます  
石舫や建物の曲線に小山は惹かれて何枚も作品を残しています

《中国の民家》（北京近郊）  
1934 年  
小山の目を通して見ると、ありふれた民家の屋根にも実用を超えた意匠が感じられます



《山海関の民家》 1934 年  
炎暑の中、万里の長城が海に終わる名勝「山海関」を訪れた小山は、長城もさることながら近郊の民家の形の面白さに目を奪われます



■ 問い合わせ先

小諸市立小山敬三美術館 担当：学芸員 中嶋 慶八郎

TEL 0267-22-3438 Eメール keizo@city.komoro.nagano.jp